コーヒー物語　スターバックスコーヒー

Web
罫線

スターバックス･コーヒーの誕生

バークレイのコーヒー販売店「ピーツ・コーヒー」で深煎りのアラビカ種のコーヒーに魅せられた英語教師のジェリー･ボルドウィンと作家のゴードン･ボーガーが、1970 年にシアトルでコーヒー店を開くことを決意。ジェリー･ボルドウィンが、「ピーツ・コーヒー」のアルフレッド･ピートから豆の選別･焙煎･抽出などのコーヒービジネスを学び、ゴードン･ボーガーと歴史教師のゼブ･シガールの 3 人で、1971 年 4 月にアメリカ・ワシントン州のシアトルでコーヒー豆の焙煎・販売会社として「スターバックス・コーヒー・ティー・アンド・スパイス」を創業しました。(1 号店は、シアトルのパイク・プレイス・マーケットにあり、創業当時の面影のままで現在も営業しています。)

「スターバックス」という名前の由来は、シアトルの南西にあるレーニア山の採掘場「スターボ」(Starbo)と、ハーマン・メルヴィル著の「白鯨」(モビーディック）に出てくるコーヒー好きの一等航海士「スターバック」(Starbuck)の名前から採ったものです。当時のアメリカではあまり見かけられないヨーロッパスタイルのコーヒーだったため評判になり、20 年後には全米へそして世界へと進出することになりました。

スターバックス･コーヒーのロゴマーク

STARBUCKS・COFFEE と書かれたロゴの真中に描かれているのはセイレンという北欧の神話に出てくる 2 つの尾を持つ人魚だそうです。美しい歌声で、船乗りを惑わせたとされています。テリー・ヘクラーが、16 世紀の北欧の木版画から見つけてきて、商標にしたものです。前身のスターバックス・コーヒー・ティー・アンド・スパイスの頃は同じセイレンでも茶色のマークでした。現在でもシアトルにある 1 号店ではこの古いロゴマークを見ることができます。

現在のスターバックス･コーヒー

現在のスターバックス・コーヒーの会長はあのシアトルの 3 人の若者ではなく、1987 年にスターバックス社を買収したハワード･シュルツです。ただビジネスだけの為に買収したわけでなく、彼もコーヒーをこよなく愛する元社員でした。本場のエスプレッソを導入したいと願い独立し自分の店を持ち､その後買収という形で戻って来ました。今のスターバックスのスタイルは彼の独立した店がモデルとなっているそうです。

角丸四角形、テキストの背面

Mild Coffee

- コロンビア　ナリニョ　スプレモ ･････････････････････････････ 480 円
  （ほどよいコク、ほのかなナッツのニュアンス）
- スターバックス®ブレックファーストブレンド ･････････････････････ 420 円
  （一日の始まりにふさわしい、マイルドかつ豊かな風味）
- ライトノート　ブレンド ･････････････････････････････････････ 420 円
  （なめらかな口あたり、すっきりとした後味）
- ハウス　ブレンド ･･･ 420 円
  （一日中楽しめるバランスの良い味わい）

コーヒー物語　スターバックスコーヒー

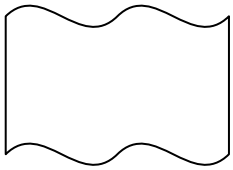
（解説）

３行あけて文を入力します。
すべての文を選択したら、「書式」－「段組」から“２段（段の幅 22 字）”に設定します。

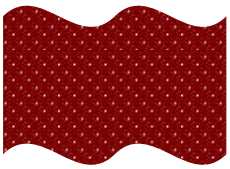
段組：２段（段の幅 22 字）、スターバックスロゴ：http://www.starbucks.co.jp/ja/home.htm
メニューの先頭の画像：クリップアート挿入後文字状態のまま、下にコピーする。
ドロップキャップ：２行、本文との距離 5 ミリ
Mild Coffee の価格部分はタブで設定する（42 字）、フォント：HG 丸ゴシック M-PRO、Broadway

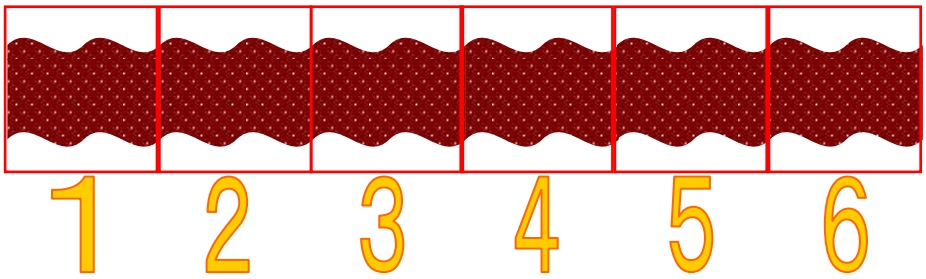
タイトルはオートシェイプとワードアートを使用します。

「星とリボン」の“小波”を使用します。



「塗りつぶし効果」－「パターン」から設定、「線の色」を“なし”に設定。





コピーして並べます。